

子どもたちの純粋さに触発

史佳 Power of 三味線

12

夢が叶った後

カナウ、ヤブレル、二つに共通する主語は「夢」。今年も世界中でさまざまな夢が叶い、破れたことだろう。

平和な日常や、ワールドカップ優勝を夢見る人もいる。夢とは時に、大きければ大きいほど残酷な現実を突きつけてくる。大きな夢には、大きな壁が立ちほだかるから。そして、人は大人になるにつれて夢を持つことを諦めるようになるのである。

私は今年、ロン・カーター氏との新潟でのステージが実現して、一つの大きな夢が叶ったが、その後、大きな喪失感に襲われた。三味線を手に取ることさえ嫌になった時期があり、それは3カ月にも及んだ。いわゆる燃え尽き症候群である。こんな経験は初めてだった。



オリジナル曲で会場は総立ちに。新潟市立白南中学校での様子

そんな最中、11月19日に、新潟市南区の白南中学校創立20周年記念コンサートに招待された。初めて白南中学校で講演会を開催したのはちょうど2年前で、今回で2度目である。

2年前、他の演奏会が中止になる中で感染対策を徹底し唯一、講演会を実現させてくれたのがこの白南中学校だったこともあり、私の中で特に思い入れが深い。その時講演を聴いてくれた1年生が3年生になっていくことも感慨深く、再会を心待ちに会場入りした。早朝にもかかわらず、生徒さんたちの元気な挨拶の声と記念式典での合唱で、涙が出そうになるのを抑えた。その声はどこまでも純粹で、未来への光が差している。心が洗われるとはまさにこのことである。

今回の講演では、ウィルス禍の2年間で挑み続けた過酷な挑戦を踏まえ、夢を実現するための具体的な方法を紹介した。決して諦めないこと、努力を続けること、夢を周りに語ること。この三つができれば、必ずその夢を助けてくれる人が現れるということ。

夢は小さくても大きくてもいい。例えば昨日できなかった三味線の手が、今日はできた。でもいい。これも夢が叶った瞬間であり、一つの成功体験なのである。その成功体験を積み重ねていくと、結果として行動、表情全てが生き生きと輝きだし、そういう人に仲間が集まってくる。そうすれば、失敗が怖くなくなり、またその夢が別の夢を呼んでくるのである。この好循環に乗ることができれば、人生の幸福度を上げるだけでなく、どんな夢も実現させることができるようになるのである。

そういう私自身も、次の夢が見つからず立ち止まっていたが、光を放つ子どもたちから、改めて気づきを与えてもらった。その希望の光がいつまでも消えないように、これからもっと、夢を持つ重要性を伝える機会を増やしていきたい。

さあ2023年、身近なコト、モノに意識を向けて、夢を探していこうか。

(三味線プレイヤー・史佳Fumiyoshi、新潟市出身)

—最終月曜掲載—